

木田市長の

# どしんと コミュニケーション



## 真の地方創生

Vol.111

住民投票によって、大阪都構想が僅差で否決されました。五年間、この構想を提唱し、リードしてきた橋下市長にとっては、いぶん悔しいことだと思います。即座に政界からの引退を宣言しました。ちよつともつたいたいと感じるとともに、実力者は違つなあともし思いました。いつでも市長なにかやめられる実力者であることは間違いありません。

橋下さんが大阪都構想を言い出したのは、二重行政の無駄を解消するということも、もちろんあったでしょうが、東京一極集中に対抗するとう意味もあったと私は考えます。東京に次ぐ第二の都市大阪も繁栄する東京から離されるばかりです。東京へ行けば

よくわかります。若い人たちがいつぱい居て、賑やかで、どの店も繁盛しています。東京の人たちには将来への危機感はないでしょう。今、こんなに元気だからです。この元氣な東京を作っている若い人たちは、全国で一夫結婚をせず、一番子どもをつくらない人たちです。もちろん、ほしくてもできない人もいると思います。この人たちが老人になったとき、東京は最悪の状況になるかもしれません。それはまだいぶん先の話です。

今、地方創生という言葉が流行りです。石破大臣を中心に、なんとか地方を元気にして、消滅可能性都市とか言われている地方の現状を打破し

ようという試みです。ありがたい試みですが、これで人口減少など全ての問題が解決するとは、私には思えません。先日、津市でトップセミナーという勉強会がありました。いかにして地方創生を実現していくかという、国の役人による講演を聞きました。講演の終わりに、私は質問をしました。「地方創生も大事なことです。全国の若者が、結婚をして、家庭を作り、子育てをしようという意識が高まるような、国の政策や予算組が必要ではないでしょうか」その質問に対して明確な答えはいただけませんでした。しよせん東京に住んでいる人には、そんなに危機感はないと感じました。

私が無茶なことを言っているわけではありません。フランスなどでは前例もあります。大事な子どもたちは親だけでなく、社会全体で育てるという考えが必要な時代が来ていると思います。結婚をしないことも自由です。子どもをつくらないことも自由です。しかし、そういう人たちが近い将来、社会全体で育てた子どもたちのお世話になる日が必ずやってくると思います。



Vol.138

### ちよつと立ち止まって 二つの祖国

二つの祖国、生まれた国と血の流れ。そのことで悩む人がいる。日本人として生活をしている在日韓国人三世の人。その人は語る「日本に生まれ、日本の教育を受け、日本を愛し、子どもの暮らす日本が、より良い国になって欲しいと願っている」と。一方、ルーツは朝鮮半島にあり、祖国の母校に教育施設整備の寄付や、毎年奨学金を贈ることをしていた父の意志を受け継ぎ、祖国のための活動を継続している。「父の母校愛から生まれる活動を支援していきたい」と。

最近の在日朝鮮人へのヘイトスピーチの中で苦しみごとがあるという。しかも、さまざまな経緯も何も分からないであろう学生が「死ね」とか「殺せ」というような非人道的な言葉を、マイクでアピールしている姿にいたたまれなくなつたという。一部の人の心ない言動によって、何も知らない自分たちの子どもが苦しめられている事実。自分たちはそんなに悪いことをしたのかと悩む子どももいる。在日であることを名乗ることができない状況をつくりだしている。「私は日本が好きですが、日本のために精いっぱいがんばりたいと思つていますが」とも言う。そんな人が辛い思いをしなくて良い世の中をみんなで作つていかなければならない。

人権の学習をすることは、自分の中にある差別性に気付くこと。何気ない一言が相手を傷つけてしまい、言葉の暴力が人を死に至らせることは十分ある。言葉は人を幸福な気持ちにさせる力も持っている。ちよつと立ち止まって考えること、差別はなくなっているのではなく、差別に気付いていないという認識に基づいて自分の言動を見直したいものだ。豊かで人権文化の溢れる社会を築くためにも。